月江寺界隈

富士吉田の中心地にある月江寺地区は、長年にわたり人気のある歓楽街でした。ここには、江戸時代（1603-1868）の織物にけん引された最盛期から、それまでになく賑わった 1920 年代半ばから 1950 年代半ばまで、地元の商人や事業家が顧客の接待や、商いの成功を祝うのに集まりました。1970 年代と 1980 年代繊維業界の国際化による経済と人口統計学的な変化は、月江寺地区の活気を衰退させましたが、ここは今日でも富士五湖地区に唯一残る本当の歓楽街なのです。現在では富士吉田市は料理店主やその他の事業主と協力して、多言語対応のサイン、メニュー、およびパンフレットが揃った、海外からの客も国内からの客もストレスフリーに楽しめる、夜を満喫するための目的地として、月江寺地域の再活性化を図っています。

新世界乾杯通り

新世界通りは、月江寺駅の南東、西裏地域の裏通りの奥深くにある細い通りでした。1950 年代から 1970 年代まで続いた戦後のにぎやかな時代には、ここは特に活気のある区域で、毎晩のように音楽や飲み騒ぐ人々で溢れかえっていました。しかし、月江寺地区全体が衰退し始めると同時に最終的に来訪者数が減ってしまいました。

2016 年には、活性化計画が正式な名称を「新世界乾杯通り」に変えることから始まりました。富士吉田市は、料理店やバーの店舗を新しい事業者に賃貸し始め、見事に風化した 1950 年代の看板が今では全く新しくなったおしゃれな外装の横に立っています。

この地区には、ミリオン通りや子の神通りなど、新世界乾杯通りに似た古き良き雰囲気の通りが広がっています。このエリアの他の通りにもずらりとレストラン、麺料理店やバーが並んでおり、その中には戦後栄えた時期から同じ経営者が経営しています。

この近くのゲストハウスには、比較的若い外国人観光客が宿泊しており、ストリートマーケットや、ミュージックフェスティバルなどのイベントが月江寺の活性化に一役買っています。